

ロマンは実を結ぶ

西日本JRバス地方本部 梅津分会

No.311



西日本ジェイアールバスでは、2001年より、京都市交通局のバス運行業務の一部を受託しており、梅津分会がある梅津営業所は、2014年より、一部の運行を受託しています。2023年現在、9つの系統を運行しており、京都駅前四条河原町から、金閣寺北野天満宮・嵐山など、主要な観光地を結ぶ路線を、西バス社員が京都市交通局の制服を身にまとい運行しています。

京都営業所と梅津営業所

西日本ジェイアールバスでは、2001年より、京都市交通局のバス運行業務の一部を受託しており、梅津分会がある梅津営業所は、2014年より、一部の運行を受託しています。2023年現在、9つの系統を運行しており、京都駅前四条河原町から、金閣寺北野天満宮・嵐山など、主要な観光地を結ぶ路線を、西バス社員が京都市交通局の制服を身にまとい運行しています。

京都営業所と梅津営業所

西日本ジェイアールバスには、西日本ジェイアールバスに京阪神地区で入社した中途採用の方や、青世代の方など、幅広い年齢層の組合員が、日夜奮闘しており、経験を積んだ後に、高速線の営業所へ転動してきます。

業務委託営業所のため、コロナ禍においても業務量の増加は無かったものの、高速線営業所への転勤や他営業所の業務量調整への対応など、組合員へ負担がかかることもありました。



バス業界は、会社間で労働環境に大きな差が無いことから、人員の出入りが絶えない状況が続いています。人員不足は安全の確立において大きな問題となり得ます。不幸な組合員を出さないために、分会としても、組合員とのつながりを意識し、世話役活動を引き続き行っています。

京都エリアの観光をバス業界一丸で支える

西日本JRバス地方本部梅津分会では、日々乗務や事務作業を行なっている組合員の意見を真摯に受け止め、継続して会社へ労働環境の改善を訴えています。

京都を観光される際には、是非ジェイアールバス運行の市バスや、京都営業所運行の高雄・京北線をご利用いただき、バスで働く組合員を身近に感じていただければ幸いです。(西バス本発)

第65回全専従者会議を開催

春闘方針や、組織・業務課題を議論

中央本部は、12月6日(火)、「第65回全専従者会議」を開催し、中央本部、各地役員総勢46名が出席した。

西労組から連合やJR連合、交通労協へ派遣している専従役員総勢46名が出席した。会議では、安全確保に向けたり取り組みや、2023春闘について、業務課題、組織の充実、強化、政治・政策活動の他、交通共済のこくみん共済への契約移転について議論を行った。

特に、2023春闘については、12月1日に連合方針が、定期昇給相当分を含む5%程度の賃上げと決定されたことを受け、コロナ禍で、いまだに大打撃を受けている交通運輸産業であるJR西労組として、どのように

から、半期ごとの回答であることから、要求方式をどのようにしていくか、また物価上昇にどう対応していくか等の意見が出された。

さらに、交通共済が7月にこくみん共済coopに契約移転されることから、具体的な移転内容についての説明を職員とともに受け、組合員に対する移転手続きを丁寧に行っていくことを確認した。

第1回 対策委員会

バス委員

中央本部は11月29日(火)、「第1回バス対策委員会」を開催し、中央本部、西バス地本・中バス地本の三役総勢14名が出席した。

冒頭、上村中央執行委員長より、バス対策委員会の重要性や、中央闘争委員会ならびに、西バス地本・中バス地本それぞれが取り組んだ年末手当交渉について総括するとともに、2023春闘に向けて意思統一を図った。

また前回の会議に引き続き、バス労働者の代表である森屋隆参議院議員が、臨時国会開会中にも関わらず、ZOOMにて議論を行った。

経営動向や、軽油引取税の減免や補助金等の必要性をあらためて訴えるなどの活発な意見交換の場となった。

JR西労組は、魅力あるバス産業の構築に向け、JR連合自動車協議会や両バス地本と連携し、課題解決に向けて取り組む。

私たちは JR西労組議員団会議の所属議員です

第5回 鳥取県議会議員 福間 裕隆 議員

日頃より皆様には大変お世話になっております。JR西労組の組織内議員で鳥取県議会議員の福間裕隆です。

1995年の初当選から長きにわたり、組合員の皆様に支えられ県政で仕事をさせていただいております。過去に、鳥取県議会では山陰本線の高速化事業や地域交通ネットワークの構築、公共交通活性化協議会の設置などについて政策提言し実現してきました。

昨年2月の定例会議では、コロナ禍で窮地にあるJRの現状と、働く組合員の労働環境を訴え、社会的共通資本である鉄道の維持・発展を求めました。知事からも、地域公共交通の必要性について前向きな答弁を頂いたところで



大きな転換期を迎えた大変な時代ではありますが、今までもそうだったように、JR西労組の皆様なら必ず明るい未来を創ることができると確信しています。仲間と手を携え、未来に向かって

進んでいきたいと思っております。私も微力ながらその一翼を担ってまいります。引き続き、共に頑張っていきたいと思います。

また前回の会議に引き続き、バス労働者の代表である森屋隆参議院議員が、臨時国会開会中にも関わらず、ZOOMにて議論を行った。

経営動向や、軽油引取税の減免や補助金等の必要性をあらためて訴えるなどの活発な意見交換の場となった。



魅力あるバス産業の構築に向けて

JR西労組は、魅力あるバス産業の構築に向け、JR連合自動車協議会や両バス地本と連携し、課題解決に向けて取り組む。

JR西労組は、魅力あるバス産業の構築に向け、JR連合自動車協議会や両バス地本と連携し、課題解決に向けて取り組む。

JR西労組は、魅力あるバス産業の構築に向け、JR連合自動車協議会や両バス地本と連携し、課題解決に向けて取り組む。



イラスト：岩瀬さん



2006年12月に入社し、広島支店の事務係として9年勤めたのち、現在は本庶社で勤務しています。分会活動に携わる前は、正直、活動にあまり参加することはありませんでしたが、役員になったことで、JR西労組としての皆さんの活動を知り、他分会役員の方と出逢い、色々な考えを知り、大変勉強させていただきました。コロナ禍で組合員の環境も変化しました。入社

中国JRバス地方本部 執行委員 伊藤千亜紀

中国JRバス地方本部 分会で副分会長を担っています。伊藤千亜紀と申します。

私の分会活動のきっかけは、数年前に分会の役員になったことです。JR西労組としての皆さんの活動を知り、他分会役員の方と出逢い、色々な考えを知り、大変勉強させていただきました。コロナ禍で組合員の環境も変化しました。入社

リモート会議等が普及して便利なおもみですが、やはり対面での人の関わりが原点であると感じています。世の中の情勢を一つ、本分会としても今後企画等の活動ができればと思っています。